



写真説明

上 テープにはさみを入れられる秩父妃殿下
 右上 河野オリムピック担当相のあいさつ
 右中 感謝状を贈られる丹下健三氏
 右下 式典に出席の田畑政治氏(向つて左側)
 表紙 代々木第一体育館内部

屋内総合競技場の竣工



オリムピックの水泳、バスケットの競技場となる代々木の国立屋内総合競技場が着工以来一年半ぶりに完成、九月五日午前十時半から水泳会場の本館で落成式が行なわれた。

出席者は秩父宮妃殿下、河野オリムピック担当相、愛知文相、石井体協会長、安川オリムピック組織委員会会長ら関係者約一千人。会場のプール・サイドでは電光掲示板に「祝」の文字が写しだされ、君ヶ代斎唱の後、愛知文相が「待望の聖火が沖繩に到着する日を前に最も代表的なこのオリンピック施設がめでたく完工したこと

はまことに意義ぶかい。建築学上でも画期的なものといわれるこの競技場は日本建築界の高い技術水準を示すもので、関係者の努力に敬意を表したい。大会後もスポーツの殿堂となり、スポーツの普及振興に寄与することを望む。」と式辞を述べ、前田文部省体育局長が設立経過報告を行ない、池田総理大臣あいさつ(白井総務長官代読)、のあと河野オリムピック担当相は「このりっぱな屋内競技場をオリンピックだけでなく、今後の国民の体力の発展充実に役立てるため努力するよう希望する。」と祝辞をのべ最後に安川オリムピックをあげた。

一方、バスケット会場となる別館では午前十一時半から秩父宮妃がテニスに鉄を入れて始球式を行ない、リッカー・ミシン、三井生命の女子チームによる模範試合が行なわれた。

建設概要

一、場所および敷地面積
東京都渋谷区神南町一番地

約九一〇〇〇平方メートル

二、建物の構造

鉄筋コンクリート造、鉄骨コンクリート造および高張力によるつり屋根構造。地下三階、地上二階

三、建物の面積

延 面 積

三四、二〇四平方メートル

建築二面積

二〇、六二〇平方メートル

本館(収容人員二五〇〇〇名)

二五、三九六平方メートル

別館(収容人員四〇〇〇名)

五、五九一平方メートル

付属棟(管理関係室、食堂、練習プール等)

三、二一七平方メートル

建物の特徴

意欲的な設計、斬新な造型で日本が世界に誇るこの建物は人々に巨大な宇宙船の幻想を抱かせるよ

うなその吊り屋根建築の本館と、巻貝の様ならせん型の屋根をもつ別館との対照の中に科学と芸術との見事な調和を見せている。丹下健三研究室、坪井善勝研究室、他の「若き科学陣」の力作である。

本館は中央の円型部分の柱間直径が百三十メートル、日本はもとより、世界でも珍しい鉄ぶきの吊屋根は、重さ二千トン、太さ三十センチのワイヤーロープで支えられていて、屋内は床から天井まで明るいクリーム一色、天井が高いので十メートルの飛込台も低く見える。

別館は天井の吸音板の列が渦を巻いて中央の支柱に集まり、床から見上げるとカタツムリの殻の中に入った感じ。東西両端には、これも日本では例のない引出し式の増設スタンドが設けられている。この高度の施行技術が必要とする一見奇妙な形の設計が採用されたのは何故であろうか。

まづ本館の平面をみると、矩形や円型をしている閉鎖的な普通の体育館とちがって、二つの三ヶ月形を互いにずらして組合わせた様な開放的なものになっている。これは閉鎖的な形からくる息のつまらぬような感覚をなくしてしまい、入場する大群集の流れをスムーズ

に処理するため、観客は渋谷口原宿口の双方から入ることが出来る。この形は開放的であると共々、競技場が必要とする、万事が一体となって感激を高めるような統一感ある空間として選ばれた。別館についても同じ事が云える。こちらは、暖房効率や音響上から空間を出来るだけ小さくして、しかも圧迫感がなく、軽快で開放的な形としてとられたのである。競技場全体の照明器具総数五千灯、水泳場プールの明るさ一五〇〇ルクス、バスケット・フロアの明るさは八〇〇ルクス。工事は一

